

横浜歴史研究会の秋の散歩

開港地横浜を行く

学ぼう！桜木町からたどる開港地横浜の足跡

「日本近代化の礎—横浜開港とそのなりたち」

平成30年11月25日（日曜日）



H.S.パーマー像

ポイント④★野毛山展望台

我国初の近代水道の軌跡
横浜の成り立ちと新田開発

【昼食】



野毛山公園からの眺望

関内

懇親会
中華街
16:00~

★ポイント⑦・
横浜近代化の第一歩
横浜公園／港崎遊廓跡
15:30

★開港広場

★開港資料館 14:30
【休憩・見学】



ポイント⑤
★馬車道入口
・関内町づくり

★ガス灯 13:30



★下岡蓮杖顕彰碑

★神奈川県立
歴史博物館
(旧横浜正金銀行)
(旧洲干弁天社)



★ポイント⑥
運上所跡（横浜県庁）
14:10

野毛山公園 11:50

12:20

★佐久間象山
顕彰碑

ポイント③
★野毛切通し

11:30

ポイント②
★神奈川奉行所跡

11:00

★ガス製造所跡
10:50

スタート

10:40

JR桜木町駅
〈集合場所〉

★ポイント①



「桜木町は將軍様献上の牡蠣を産する海だった」



広重画「神奈川宿」



江戸初期の横浜

中世より神奈川から横浜村を含む地域へは道は無く、舟による交通手段で交流していた。



開港前の横浜

ペリー来航時の神奈川・横浜は江戸初期からの新田開発が進み上図のような地形になっていた。

「横浜の三偉人を語ることが本日の散策のすべて」



山側から見たガス製造所(明治3年建造)



太田陣屋

①吉田勘兵衛 吉田新田開発

慶長生まれ摂津の人。江戸で石材商を営む。明暦2年いまの大岡川河口を埋め立て新田開発を行う。寛文7年竣工、吉田新田と名付けられる。

(写真)南区山王町にある勘兵衛が新田の鎮守として勧請した日枝神社(お三の宮)



②高島嘉右衛門 ガス製造所／横浜開発

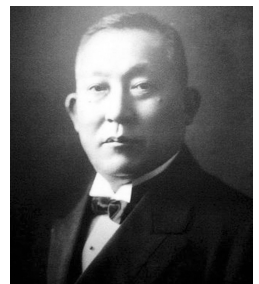
幕末・明治期の実業家、易断家。江戸三十軒堀に生まれ、家業の建築請負い、材木商で財をなす。一時、貨幣密売の罪で獄中生活を送るも、出所後、英国公使館の建設を請負うなど巨額の富を得る。

明治に入ると横浜のガス事業や旅館業、廻船業を営む他、横浜-神奈川間の鉄道路線地の埋め立てなどの事業を行った。易断家としての高島曆や伊藤博文との交友は有名。



③原 三溪 生糸商／明治日本の芸術振興

岐阜の人。横浜の生糸貿易の豪商 原善三郎の婿養子。国宝級の絵画・古建築を収集し三溪園で一部を公開する。横山大観、前田青邨ら現代作家養成のため再興日本美術院の画家達を援助する他、茶人として名高く、自ら書画に勤しみ理想的な芸術パトロンであった。野毛山は父善三郎の別荘があった所。



切通しから商人達はどんな夢を描いたのか

●安政5年暮れ、開港地建設が始まる

幕府は9万6千両の費用をかけ波止場、神奈川奉行、運上所、道路、橋などの建設並びに東海道からの道、横浜道を造った。

●沼沢からこつ然と現れた街

3ヵ月で造り上げた開港地をイギリス領事オールコックは「人住まぬ湾のはしの沼沢から、魔法使いの杖によってこつ然と現れた」と表現している。

●日本人街へ全国から商人達が集まる

開港当初の横濱に出店した商人は、幕府から半強制的に出店させられた三井八郎右衛門、伊勢屋平作など江戸の豪商や新しい取引機会を求めてきた在方商人である。



五雲亭貞秀画



主権とプライドをかけた開港横浜の近代化

開港時横浜には水売りがいた

横浜は、深い井戸をほっても飲み水を得ることができなかった。そのため横浜の住民は、飲み水を運んでくる水売りにたよっていた。居留地外国人の不満もこの点に集中し、明治政府はその改善を再三求められていた。



不平等条約撤廃のための近代化

横浜水道は明治政府がメンツをかけた事業

諸外国との間の不平等条約の改正のために、我国の近代化の進展が前提条件と考えられていた。

1877(明治10年)中国でコレラ流行、明治12年日本にも流行。

外国側は「横浜の不完全で劣悪な上下水道が原因で、恐るべき伝染病の来襲する」と、自分達の手で水道を敷くと主張した。明治16年(1883)日本に来ていたイギリス工兵将校パーマーを雇い、水源を津久井郡道志川に求め、全長44kmにトロッコレールを通し、水道鉄管を布設した。

野毛坂に展示してある水道管⇒



江戸の新田開発はここ横浜にも及んでいた

吉田勘兵衛が千石地主を夢見て開発

明暦2年(1656)江戸の木材石材商、吉田勘兵衛は横浜の入江に目をつけ、幕府の許可を得て新田開発を始める。苦労の末、寛文7年(1667)8千両の工費をもって完成する。

当時千石以上の地主には神社の建立が許されており、勘兵衛は日枝神社神社を勧請し、名字帯刀が許された。

19世紀横浜・太田屋新田の開発も始る

寛政年間になり横浜村の人々が新田を開発(現・中華街)、文化年間(1804~18)に完成する。太田屋新田は嘉永年間(1848~)より三河商人太田屋が開発を行ったが、その80%は潮流が干満する沼地で、農民は鰻を捕ったり、塩を焼いて生計を立てていた。そのため同新田地域は海岸・本町通りより低くなっている。



生麦から恐怖に震え駆け抜けた吉田橋



関内側から見た吉田橋と関門(明治4年撤去)

ボラデル夫人が駆け抜けた吉田橋

生麦村で襲われたボラデル夫人は野毛坂を下り、この橋で救いを求める叫び声を上げた。(生麦ー関内まで約12km)

関門は二本差しをチェックするため

開港の条約上は「居留地の周囲に門しようなどを設けず自由に出入りすべし」ということだったが、攘夷志士による殺傷事件が相次いだため関門が設けられるようになった。



明治2年(1869)架け替えられたトラス鉄橋



明治6年(1873)横浜郵便局開業

明治5年日本で始めてガス灯が灯る

新政府にドイツの商会がガス事業を申請する中、高島嘉右衛門は仏技師を招き、日本のガス会社を設立、明治5年10月31日、大江橋から、馬車道、元町通りにかけて10数基のガス灯が灯された。

不平等条約の実態に気づかされるお人好し日本

屈辱的外交はこの一言で始まった

〈事の始まり〉生麦事件起きる

文久2年(1862)8月21日、帰国途中の薩摩藩主島津光久一行は観光中のリチャードソンら4人が遭遇。リチャードソンは榑原喜左衛門に殺害される。

〈対イギリスはその他にも〉

- ◇文久元年5月第一次東禅寺事件
- ◇文久2年5月第二次東禅寺事件・英水兵殺傷
- ◇文久2年12月高杉晋作ら御殿山英公使館を焼討ち
- ◇文久3年2月イギリス艦隊品川沖来航 生麦事件の賠償要求
- ◇文久3年5月幕府賠償金44万ドルを支払う。併せてイギリスは横浜の英国人資産300万ドル近くの保護を幕府に求めた。



幕府回答 十分注意するが貴方が処置することはあえて拒むところではない



その結果

**外交ベタの言質を取られた結果
英仏両軍兵駐屯の口実となる**



- ◇文久3年6月イギリス、フランスの軍隊が山手に駐留開始→本邦初の外国軍駐屯

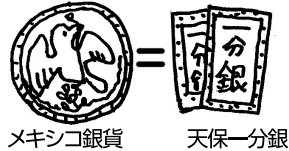
洋銀両替問題と金貨の海外流出

通商条約に「外国の諸貨幣は日本貨幣同種類の同量を以て通用すべし」「双方の国人互いに物価を償うに日本と外国との貨幣を用いる妨げなし」との諸規定があり、金貨・銀貨の輸出も認められていた。

●金銀交換比率の盲点をつかれた日本

外国人が持ち込む洋銀(メキシコ銀)1枚につき、一分銀3枚の比率で両替に応じた→しかし市場の実勢は洋銀1枚につき一分銀2枚だったため外国の商人、官吏、軍艦乗組員まで交換差益を得た。

実質的価値



実際は1:3で交換した
そして増えた一分銀を小判に替えた



**同様に外国は幕末動乱に乗じた
さまざまな圧力をかけてきた**

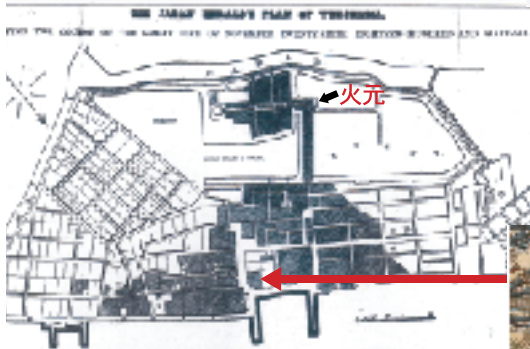
例えば英・米・仏・蘭4か国は四国艦隊下関砲撃事件の未払い賠償金の放棄を提案し、大阪・兵庫の早期開市・開港、関税率の引き下げを要求

豚屋が焼けて遊廓跡地は西洋式公園になった

居留地外国人を恐怖に陥れた慶応の大火

慶応2年（1866）10月20日、豚肉料理屋から出火した火事（通称：豚屋火事）は、強風に燃え広がり、運上所や日本人町の大半、外国人居住区にも被害が及び水神の森の「たまくす」も焼けた。

これにより横浜居留地は日本で初めての近代的な都市計画改造となり、幅約36メートルの中央通りを公園から海岸まで通す事になった。



水神様にあったたまくす▶

品川・岩亀楼が港崎（みよざき）遊廓を開発

幕府は日本人商人の横浜移住奨励と単身来日の外国人対策として遊廓の設置を行った。場所は太田新田の沼地を埋め立て建設。主に工事にあたったのは品川の遊廓・岩亀楼で



安政6年末に完成。以後慶応2年の大火により吉原に移転する迄8年間営業を続けた。

